

今年度は1,397人で出発。昨年度より349人減少。

就労日数が増えるのはうれしいが・・・。

今年度の特掃も、昨年度と基本的に同じ就労紹介数ではじまった。

通常の輪番紹介は1日196人、基金事業が1日41人、センターガードマンが1日26人だ。

登録者数は、1397人と、昨年度の4月1日にくらべて349人・約20%減っている。昨年度は1746人で出発して、4月の4回の登録日に490人が登録したの

で、最終的には2236人になった。今年度も同じくらい4月に登録したとしても、最終登録者数は2000人を割りこむことになる。

そのため、月何回とは断定はできないが、昨年度の後半なみには輪番紹介はまわってくるだろうと予想できる。日雇仕事もほぼなくなり、アルミ缶の値段も低くな

つて、また生活保護への入り口が劇的にひろがったために、生活保護にうつって特掃を卒業していった人が多くいた結果だろうと思う。

特掃の就労回数が多くまわるようになったのはいいことなのだが、年金など他の収入がある人をのぞけば、それだけでは野宿からぬけだして生活していくにはまだ

まだ遠い現実がある。

また、登録者数が減れば、特掃の必要性がどこまであるのか、という議論が行政内部でおきかねない危険もはらんでいる。

だが、いま特掃事業は、公園や河川敷の除草や清掃など、また保育所だけでなく学校の塀の塗り替えなど、大阪府や大阪市の職員削減などでひろがっている、公共サービスの空白化を埋める役割をになっているのは

たしかだ。

雇用創出というだけでなく、公共サービスの低下をふせぐ事業としての重要さはますます増してきている。このことを自覚して、社会や市民に役だつ特掃事業として、今年度の仕事もしっかりとやっつけていこう。

特掃更新日程

- 4月6日(火)
- 4月13日(火)
- 4月20日(火)
- 4月27日(火)

新規登録も、更新も受け付け
ただし、2009年度登録者も、受け付け
順の番号(1398番より後)になります。

午後1時～4時、
センターで。

更新する日より1年以内
に受けた結核検診カード
が必要です。

生活保護の受給者
は就労できません。

すこ あんてい しゅうにゅう 少しでも安定した収入をえるために。

きんきゅうこ ようそしゅつき きんじぎょう つか ハローワークなどでの緊急雇用創出基金事業の使い方

2011年度末までの期間、7千億円の予算で実施される「ふるさと雇用再生特別交付金及び緊急雇用創出事業」(以下、雇用基金事業という)について、お仕事支援部での実績や利用の仕方について報告する。

雇用基金事業の目的は、地域の雇用失業状況がきびしいなかで、地域の実情や創意工夫にもとづいて地域求職者などの雇用機会を創出する取組みを支援するためと、離職を余儀なくされた非正規労働者などの一時的なつなぎの雇用機会を創出するためにある。

さて、お仕事支援部の実績であるが、2010年3月までに、雇用基金事業につかれた方は、30名だった。①1ヶ月以上6ヶ月未満の事業につかれた方は27名で、27～69歳の平均50歳。内訳は、駐輪関係10名、夜間巡回4名、交通安全指導啓発4名、草刈等現場作業4名、アンケート調査3名、介護関係2名となっている。②10日間の事業につかれた方は3名。30名のうち生活保護利用者は、15名だった。雇用基金事業をへて常用就職についた方は6名

で、同じ事業所に継続雇用された方が2名、別の事業所に就職された方が4名となっている。(この6名は生活保護利用者ではなかった。)

特掃登録者の利用については、勤務時間が夜間になる事業が多いのと、週5日勤務が多いため、特掃に行きながらはきびしいかもしれない。また保証人が必要な場合もある。しかし月20日間の勤務の賃金は、交通安全指導啓発で7万円位、駐輪関係で8～10万円位、夜間巡回だと14万円位になる。中には日払い可能という求人もあるので、この機会に就職活動をして、新しい仕事にチャレンジしてみてもどうかと思う。

応募については、基本的にハローワーク(ハローワーク阿倍野とプラザ阿倍野は、あべのルシアスの8階に移転された)、しごと情報ひろば(南海線天下茶屋駅)、サポートネットOSAKA(天満橋のエル・おおさか南館2階)等で紹介をうける。数は少ないが大阪ホームレス就業支援センターに、直接求人があることもある。中には、数十名規模の求人もあるので、マメに情報収集して応募すれば、採用につながる可能性はある。

くわしい情報は、お仕事支援部へ。(三角公園の西側にある南職安の跡地にあります)

月～金曜 あさ9じ～夕方4じ(正午～1じは休憩)。土曜 あさ9じ～正午